

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

相談・支援活動から Q&A

Q：忘れ物が多くて、授業に参加できない生徒への支援は？

A：事後指導よりも事前指導に、対処より予防に力を入れる。本人や保護者が確認できるように持ち物チェックリストを作る、メモ用紙や付箋を活用して確認する習慣を付ける。忘れたときは、先生や友達から借りるなどのルールを設ける。

Q：定期的に療育機関に行かなくなった保護者への対応は？

A：保護者の障害受容には差がある。受け入れたかと思っていても、何かをきっかけに苦しんだり落ち込んだりする。子どもにとってメリットがあればまた行くようになる。保護者に寄り添いながら、ときには一緒に行くことを考える。

Q：一人の子どもに対応している間に、他の子どもたちを待たせている現状である。すべての子どもに平等にかわりをもつ支援は？

A：園内体制を見直して活動によっては複数で指導する。活動量や方法を子どもに合わせて調整する。(同等と平等の違い) 例えば、10までの作業工程があれば、6までは先生が、残りを子どもがやって達成感を味わえるようにする。支援は、手取り足取り教える、モデルを示す、言葉で伝える、視覚支援、補助具を活用するなど、子どもの実態に合わせて行う。子どもが一人でできる状況づくり、友達と関わり合いながらできる状況づくりを考える。

Q：関係者が同じ方向性で支援するためにはどうしたらよいか？

A：保護者、学校、関係者に、子どもを何とかしたいという思いがあってもその思いの形に違いがあると改善は難しい。個別の指導計画を作成して、思いの形(目標・手立て・情報・ノウハウ)が同じなるようにする。第三者の力を借りることも考える。

Q：写真やイラストなど、視覚支援が有効だといわれている理由は？

A：視覚支援の有効性は、情報が消えない、見える、思い出せる、みんなで確認できる、ルールが明確になる、聴覚的短期記憶の弱さをカバーできるなどである。

例：行っても行けない場所に×を掲示したら行かなくなった。

例：1時間の授業の流れを示したら参加できる時間が増えた。

Q：大きな音や暗い部屋、狭い場所を嫌がる。入園して一度もクラスの中に入っていない子どもへの支援は？

A：途中入園したので、不安な状態である。無理強いせず、本児が安心できる人や居場所を見付ける。みんなのそばで自分の好きな活動をする等、スモールゴールを増やしてラストゴールへ。理解→できることから→許容範囲を設ける→大丈夫だよという経験を重ねる。不安を軽減するためには、①心の支えとなる人がいる。②先の見通しがたつ。(予告・スケジュール)③具体的な手立てがある。(支援・モデル・小さな成功体験)